

NPO法人のってこらい

奈良県との境にある熊野市五郷町は、人口約600人、約360世帯が暮らすのどかな山間地域で、市中心部からは車で30分。平成22(2010)年6月、この五郷で住民が立ち上げた「NPO法人のってこらい」は公共交通空白地有償運送のための団体。「のってこらい」とは「乗ってこい」というこの地域の方言です。三重県で初めての過疎地有償運送を始めました。



事務所に掛かる看板

お問い合わせ

「NPO法人 のってこらい」
事務局
熊野市五郷町桃崎521-1
TEL 090-4858-6808

公共交通機関の便が少ない熊野市五郷町。集落には坂道も多く、バス停まで歩くのも容易ではありません。まちの交通手段「NPO法人のってこらい」には、多くの住民が会員登録して運営を支え、地域一丸となつて取り組んでいます。代表の徳田 繁さん、会計の下和田 由紀子さん、ドライバーの細川 徹さんにお話を伺いました。

活動のきっかけを教えてください。

徳田：五郷町は一人暮らしの高齢者が多く、買い物や診療所にも行けない人が大勢いて、移動手段の少ないことが課題でした。平成18(2006)年に施行された「道路運送法等の一部を改正する法律」

について、当時市議会議員の増田 幸美さんが交通空白地の問題を検討。市のサポートも受けながらバス・タクシー会社とも話し合い、また住民アンケートを実施して、NPO法人を設立したのです。隣の飛鳥地区とともに、自家用車による有償旅客運送を始めました。

県内で初めての先進的な事業ですね。

下和田：似たような悩みを持つ地域から視察もあります。運行区域を広げたときには、ふるさと納税のクラウドファンディングで新しい車両を購入することができ、全国から共感を得られているのを感じます。徳田：平成29(2017)年度には総務省「ふるさとづくり大賞」を受賞しました。評価してもらえた点は、地域全体が活動

をしつかり支えていることで、会員が150人います。このメンバーには高齢の利用者だけでなく、まだ免許を持っていたり、仕組みをサポートしたいという若い世帯も含まれています。

運転に特別な資格は必要ですか。

細川：一種の免許証のほか有償運送の運転講習を受けます。ドライバーは基本1人ですが、今は15人程が登録していて、旅行に出かけたり、一度に多くの人が集まる場合は、登録ドライバーが車を出して



細川 徹さん



下和田 由紀子さん



徳田 繁さん

地域全体でまわせるように配慮されています。わたしは8年前に家族で五郷町に移住し、今年1月から本格的に業務に加わりました。地域の方とのつながりも、より深くなっています。

運行状況を教えてください。

細川：月に平均250件ほどの利用があります。料金はタクシーの2分の1以下に設定し、利用客のほとんどが車を運転しない高齢者で、診療所や買い物、美容院などに出かけるとき。利用したい時間や行き先を予め申し込んでもらい、予約した時間にご自宅やご指定の場所に伺います。徳田：運行時間は平日の8時から17時。

毎週火・金曜(飛鳥は月・水曜)は8時から10時の間で1便だけ市街地まで片道運行していますが、商店街や駅、診療所、スーパーなど、降りる場所は決まっています。帰りはバスを使ってもらうので、利用状況はなかなか伸びません。ほかには健康長寿課の行う事業の送迎に協力したり、クマの目撃情報が出ると小学校の送り迎えも受けています。

気をつけていることはありますか。

下和田：高齢者を単に車で運ぶだけでなく、ドライバーは玄関に一番近い場所に工夫して車を停めたり、乗降時に踏み台を用意したり、のんびりと買い物を待ったり、

ときには重い荷物を運んであげることもあります。単なる運送の枠を超え、みんなの暮らしをサポートしています。ドライバーは一人暮らしの利用者の方との会話も楽しみながら、見守り活動としての役割も果たしています。

「のってこらい」が運営を継続していることで、高齢で車の運転ができない住民も、安全・安心に地域の店舗に買い物に行くことができ、愛着のあるまちで暮らし続けることができます。交通政策の一つとして役割を果たし、地域において欠かせない移動手段へと成長しています。

インタビュー：中村 元美



乗り降りしやすいよう踏み台を用意



玄関先や車のドアまでフォローする



知ったもの同士で会話も弾む



緑豊かな五郷の集落。坂道も多い



取り組みが評価を受けている